

若葉の頃のおはなし会 (5/10)

一部

小さいお嬢さまのパラ 増田佳恵

かしこすぎた大臣 丸岡和代

青い花 西村敦子

蜘蛛の糸 税所紀子

二部

月夜と眼鏡 税所紀子

かしこいグレーテル 増田佳恵

魔法使いのチョコレートケーキ 丸岡和代

アザラシ女房 西村敦子

(語り手は「まちだ語り手の会」有志)

夜のおはなし会に寄せて

低気圧の到来で、激しい風雨にヒメシヤラの枝が大きく揺れる中、この天候にどれだけの方がお越しいただけるかと、お迎えする側は不安でいっぱいでした。

けれども定刻には、暗い夜道を歩くための懐中電灯と雨傘をさしたみなさんが次々にいらして下さり、この場所だけはまるで別世界のような、ほっこりとした暖かさに包まれて大人向けの夜のおはなし会が幕を開けました。

会場には、高校生の娘さんとご一緒のお母さんをはじめ、ご夫婦連れの方々や、「こどものとも」の編集長の姿も見えました。

休憩時間には、暖かい飲み物とお菓子が配られ、後半のひとつきも又、皆さんの心の琴線を少しでも振るわせるおはなしの世界をお届けできたでしょうか…。

「雨風が激しいのに、とても良い晩でした。」と、帰路に着かれる皆さんの声が優しい。そんな2時間余りに癒されたのは、ほかでもない語り手たちだったかも知れません。(税所紀子)

子どものおはなし会 (5/11)

おはなし 蒼いこねことお皿

手遊び てんてれつくてんぐの面

手遊び おやまがね あったとさ

パネル あのおやまこえて

翌日の子どものおはなし会は、展示会のため、場所を絵本棚の前の図書コーナーで、たくさんの親子がくつつきあって楽しみました！

☆☆文庫あれこれ

◆2、3日前に来ていた娘一家が寒くてどうしよう、と電話してきました。今日は晴れて真夏日。お空の神様は心変わりが激しい??◆うとうしい季節ですが、爽やかな本をみつけて楽しく過ごしたいものですね。◆東京の家を出るとき、文庫、母屋、老母、嫁いだ娘のそれぞれの鍵をリュックにいれて歩いていたらそれがチャリンチャリンとぶつかり合って、壮年?の頃、四国八十八箇所をひとり歩いたときのお遍路鈴の音を思い出しました。◆このところ、太りすぎてすぐ疲れるし、おまけに歯痛、目ショボショボと、たるんでいる症候群です。皆さんも体調を整えてください。◆でも、車中から見たアジサイの青、赤むらさきが美しかったです。(西)

“ “これからの催し物のお知らせ” ”

★海の日のおはなし会★

7月20日(日)夕刻から 伊豆高原駅クスノキ下

★子どものためのおはなし会(文庫開館記念)★

7月21日(月)朝10:30~ 沙羅の樹文庫

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆7月は19日(土)、20日(日)です。

♥7月21日(月)は、おはなし会(文庫開館記念)だけで、貸出返却はありません♥

◆8月は8、9、10日の3日間、30、31日の2日間の計5日間開館します。

◆9月は通常第3土日(20、21日)です。

◆文庫の時間:土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

◆文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日ではなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会

★7月は1お休みです。8月は9日(土)です。

沙羅の樹文庫便り

No.22

(2008年6月号)



集ふ
新樹の
小館(しょうやかた)
(松本和子)

5月に会員になってくださった松本さんが
沙羅の樹文庫を詠んでくださった一句です。
5月に若かった新樹(ヒメシヤラ)は、
6月には白い小さな花をつけ、
樹の梢から音も立てずにまっすぐに落ちてくるので
ああ、いつの間にか咲いていたのね、
と、気がつきます。

紹介・子どもの本 大人の本

★会員から会員へおすすめの1冊★

(文庫の棚の本を紹介していただいております。)

『しゃっくりがいこつ』(マージェリー・カイラー作 黒宮純子訳 セーラー出版 2004)

「しゃっくりがいこつを読んで」

『しゃっくりがいこつ』を読んでおもしろかったのは、しゃっくりがふっとんでいくところです。

そもそもしゃっくりは、おどかしたら止まりますが、しゃっくりしたままにげて行くなんで、変でした。2番目におもしろかったところは、歯をみがいている時に、しゃっくりと同時に、歯がとび出るところです。がいこつだからといって、歯はとび出ないだろう、と思いました。でも、おもしろい本でした。(茶本結海)

★結海ちゃんは、4年生。文庫のお向いさんです。弟の浩太郎くんといっしょに母屋を突っ切って元気にやってきます。さてさて、がいこつもしゃっくりするのでしょうか!!

『1/4のオレンジ5切れ』(ジョアン・ハリス著 那波かおり訳 角川書店 2007)

『ショコラ』の作者の「食の三部作」の最後の一冊、本書に私はのめり込むように、この世界へと飛び込んでしまった。

父の戦死以降、頑なに自分の価値観で残された農園を守って必死に生きる母ミラベルが、一冊の「雑記帖」を遺産として私・フランボワーズに残した……。

1942年フランボワーズ九歳の夏から秋に見た風景——ドイツ軍が駐留し、レジスタンス運動が巻き起こったフランスのロワール川沿いのある片田舎で、あの日、本当は何が起こったのか——六十四歳になったフランボワーズが、名前を変えて生まれ故郷に戻ってきた。「雑記帖」につづられた母の心の眩きにひかれるように記憶の川を上って行く……。

この作品のダークでビターな一面は、一瞬くらい淵を開き、途端読者をその闇の中に引きずり込んでしまう。そこらの中に張り巡らされている闇は、ひとりひとりの読者にとって、自分が現在ある位置によって 100

人 100 様の違う顔を見せる。誰もがいわば生き残る為に人に言えない秘密を抱え込む。そして表題は作品の核心から4等分する振りをして5つに切るという行為を何故しなくてはならなかったかに収斂されていく。やがて手探りで過去に遡って行った主人公は、母の真実の姿に辿り着き——偏屈な母との確執の繰り返し、子どもであるが故の純粋さと残酷さを、また長く秘密を守って生きて行かなくてはならなかった事の辛さに——贖罪の涙にくれる。

謎に満ちたフランボワーズが解放しようとした記憶、そしてその闇をくぐりぬけた時現れる新しい人生——人は愛された記憶によって救われ、平安な人生を感じる事が出来る、のだと。

ようやく読むものに安堵を与えてくれた……。

……私がダークなものに引き込まれ、胸を衝かれ、なかなか立ち上がる事の出来なかったのは——

「それで、あたしたち、彼らに……いいえ、彼らのひとりに言ったの。」前髪“とラジオのことを”

レネットの顔がなぜか牡丹の花のように赤く染まった。

「そしたら、あたしに口紅をくれたのよ。兄さんには煙草を……。」(P73) (田畑木利子)

★田畑さんのように物語の真髄を巧みに表現できないけれど、私もいまだに心にひっかかって離れ得ない、苦いけれど人間の深淵と、でもその遠くまで細くやわらかく射す光線も感じました。ちょうど同じ頃、児童書で同じように「かわかます」が暗示する『かわかますの夏』を読んでダブルで強い衝撃をうけました。両方ともとても辛いのですが、併せて読まれることをおすすめします。西。

新刊・新入庫の本

今月は大人の本 20 冊、絵本が数冊入りました。

子どもの本

絵本

『あめのりのおくりもの』『ロージーのおさんぽ』『おねえさんといもうと』『つばさをちょうだい』『魔女と盛りの友だち』『しろいやみのはてで(あらしのよるの特別編)』

大人の本

『それは私です』(柴田元幸)『風花』(川上弘美)『奇縁まんだら』(瀬戸内寂聴)『母の家で過ごした三日間』(フランソワ・ヴェイエルガンス)『わたしの知らない母』(ハリエット・スコット・チェスマン)『ファラゴ』(ヤン・アベリ)『頼山陽 上下』(見延典子)『輪かんじきの跡』(辻葉子)『あて名のない手紙』(宮川ひろ)：ハードカバー／『女は胆力』『ゆるみ力』『傷つきやすくなった世界で』『吾々は猫である』『古代から来た未来人折口信夫』：新書／『償い』『タンゴステップ上下』：文庫 ほか

2,008年度 読書感想文 課題図書

★小学校低学年の部★

『ふしぎなキャンディーやさん』(みやにしたつや作 絵金の星社)／『ぼくがラーメンたべるとき』(長谷川義史作 絵 教育画劇)／『かわいっこねこをもらってください』(なりゆきわかこ作 垂石眞子絵 ポプラ社)／『ちいさなあかちゃん、こんにちは!』(リヒャルト・デ・レーウ、マリーケ・シーガル作 ディック・ブルーナ絵 野坂悦子訳 講談社)

★小学校中学年の部★

『3年2組は牛を飼います』(木村セツ子作 相沢つ子絵 文研出版)／『ぼくのだいすきなケニアの村』(ケリー・クネイン文 アナ・ファン絵 小島希里訳 B.L出版)／『花になった子どもたち』(ジャネット・テラー・ライル作 市川里美画 多賀京子訳 福音館書店)／『今日からは、あなたの首導犬』(日野多香子文 増田勝正写真 岩崎書店)

★小学校高学年の部★

『チームふたり』(吉野万里子作 宮尾和孝絵 学研)／『耳の聞こえない子がわたります』(マリー・マトリン作 日当陽子訳 矢島眞澄絵 フレーベル館)／『ブルーバック』(ティム・ウイントン作 小竹由美子訳 橋本礼奈画 さ・え・ら書房)／『なぜ、めい王星は惑星じゃないの?』(布施哲治著 くもん出版)

★中学校の部★

『となりのウチナンチュ』(早見裕司著 理論社)／『曲芸師ハリドン』(ヤコブ・ヴェゲリウス作 菱木晃子 あずなる書房)／『天馬のように走れ』(那須田稔著 ひくまの出版)

★高等学校の部★

『荷抜け』(岡崎ひでたか著 新日本出版社)／『兵士ピースフル』(マイケル・モーバーゴ著 佐藤見果夢訳 理論社)／『オデッセイ号航海記』(ロジャー・ペイン著 宮本真雄訳 角川学芸出版)

♥下線の本は文庫に在庫もしくは、7月入庫です♥